

故郷で学んだ3年間

令和4年4月から昭和村の地域おこし協力隊として活動しながら道の駅「あぐりーむ昭和」の旬菜館で勤務していた綿貫秀人さん(森下中)が、3月末をもって3年間の任期を終えます。春からは道の駅の一員としての活躍が期待されます。



令和4年4月から3年間に渡って活動していた地域おこし協力隊の任期が3月末で終わります。久しぶりに村に戻ってきて思ったことは、あの頃と変わらず自然が豊かであることと人間関係の濃さを実感しました。

葉で最後まで続けることができました。今回で最後になりますがご覧いただきありがとうございますとございました。

3年間の地域おこし協力隊活動を振り返ると、一番に思い浮かぶのは横浜市との交流イベントです。多くのイベントに参加させていただき、来場者に村の良さをPRしました。来場者の中には「昭和村の野菜を楽しみにきたの」と声をかけてくれる人やリピーターの方もいたりして続けてきたPR効果を実感しました。

また、会場で販売する野菜を手配するのにあたって、イベント準備の難しさや責任を感じました。生産者や旬菜館の方々の協力があり、持参した野菜を無事完売することができたときの嬉しさはひとしおでした。

広報しようわの「地域おこし協力隊通信」で活動報告を書かせてもらっていましたが、ありがたいことに「広報見たよ!」などの反応を貰うことがあり、活動のやりがいを感じました。最初、掲載依頼を受けたときは『どうしようそんなことしたくない』と不安を覚えました。自分なりの言

その他には、FM GUNMAと群馬テレビに出演したことが印象深いです。初めての公共放送の出演に向けて昭和村の良さをアピールするため何回も練習しました。当日、緊張感によって言葉が詰まってしまい、うまく話すことは出来ませんでした。アピールポイントが伝えられたと思います。

振り返るとこの3年間で色々なことを体験させていただきました。村を離れ、忘れていた「田舎は田舎の良さがある」ことを改めて思わせてくれた3年間でした。



私だから知っている
昭和村の良さを伝えるために
地域おこし協力隊 綿貫 秀人さん